

令和4年度 看護キャリアセンター報告

臨床看護師の研究能力を 高めるための取り組み

教育研究推進WG

はじめに

研究は看護の質の向上に貢献するものと言われている。

日本看護協会の看護者の倫理綱領¹⁾において、「看護職は、研究や実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与する」と述べられており、看護者は科学的根拠に基づく看護を実践し、また専門的知識や技術の開発を行い、看護学に寄与する責任を担っている。

当院看護部は、臨床看護師の研究能力を高めるために2つの取り組みを実施している。

当院における研究能力を高めるための取り組み

1.九州大学病院看護研究コース

研究に関する知識やスキルに関する研修を行いながら、指導者による指導も実施

- 教育研究推進WGが中心となり平成24年度に臨床看護師の看護研究に関する看護実践力向上を目的として開講。

2.キャリアステーション

研究を進めていく中で、困ったことや進学について相談できる

- ブロッサムプロジェクトの教育指導者養成で育成された看護職員を中心に、平成25年6月にキャリア相談窓口を開設。大学院修了者や専門看護師、保健学科への人事交流者を相談員に追加。

1. 九州大学病院 看護研究コース

教育研究推進WG構成員：

九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野の教員

九州大学病院看護部の教育担当、大学院を修了した看護職員

【看護研究コースの流れ】

令和3年度

1年目

基礎編



中間発表会



成果発表会



令和4年度

2年目

実践編



中間発表会



成果発表会



論文発表
学会発表

令和4年度 看護研究コース【実践編】

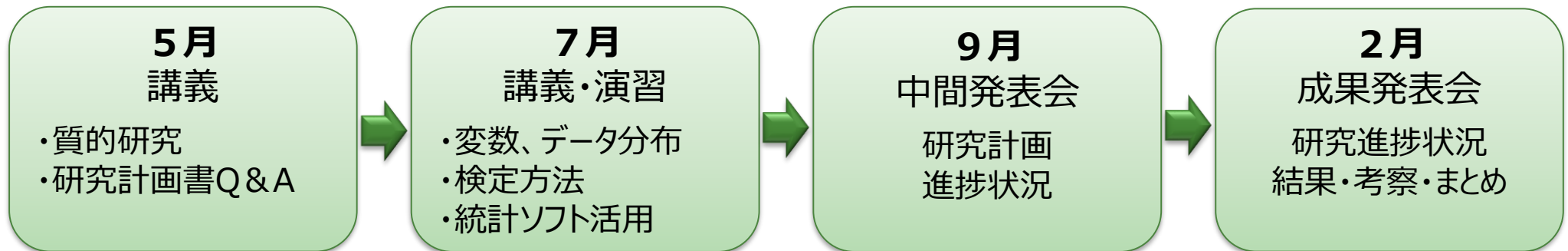
<目的>

1. 看護研究の一連の流れを学習・体験し、研究方法の基礎を身につける
2. 看護の現象に対し研究的視点を持ち、関心領域に関する研究を深め、研究成果を発表できる

<対象> 定員 10名：受講者1名に対し、保健学部門の教員が個別指導

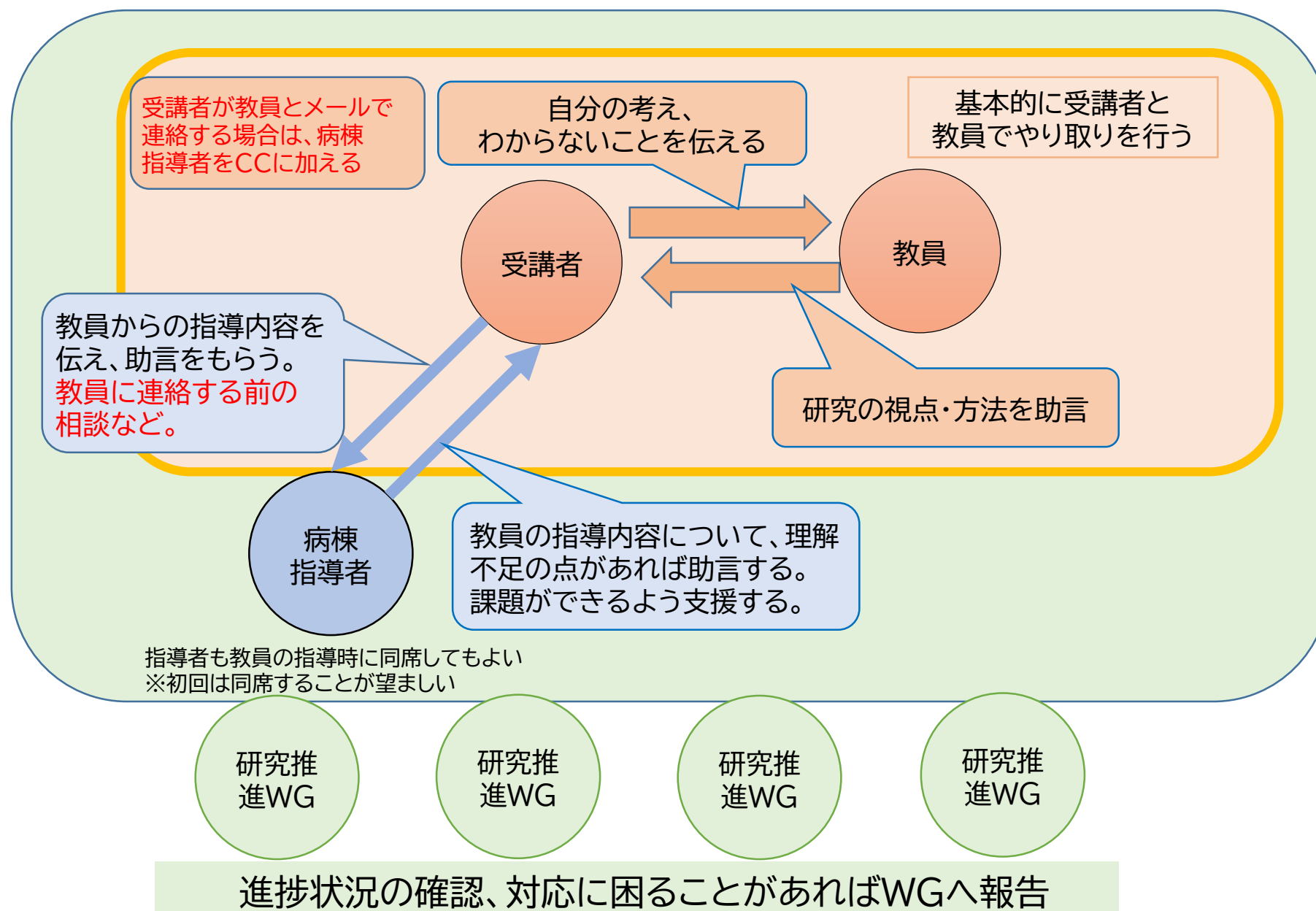
- 1) クリニカルラダーⅡ以上のもの
- 2) 基礎編を修了していることを原則とする

<スケジュール>



各指導者から個別指導

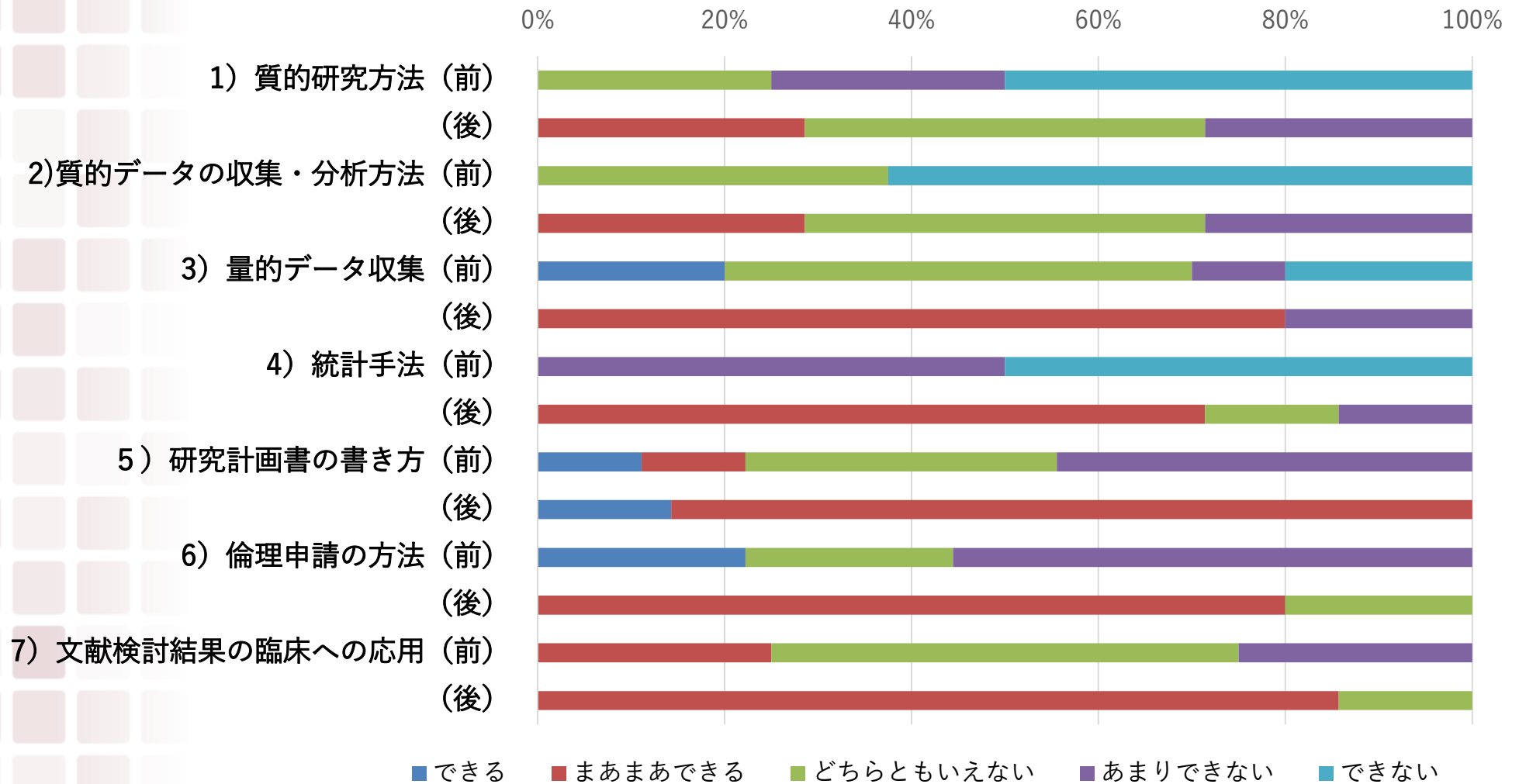
看護研究コース 受講者支援体制



看護研究コース【実践編】の研修内容

日程	講義内容	担当	参加人数
第1回 5月 9時～12時	1. 質的研究方法について 2. 研究計画書の書き方Q&A	教育研究推進WG 保健学部門	コース受講者：8名 公開講座受講者：11名
第2回 6月 13時～16時	3. 変数の種類やデータ分布の特徴 4. 検定の基本と検定方法、結果の読み方示し方 5. データの入力方法、統計ソフトの活用（演習）	新医療統計研究所 所長 ファシリテーター： 教育研究推進WG	コース受講者：8名 公開講座受講者：15名
第3回 7月 13時～16時			コース受講者：8名 公開講座受講者：14名
【中間発表会】 9月 13時～15時	6. 研究計画、進捗状況報告 司会進行・タイムキーパー（受講生）	教育研究推進WG	コース受講者：8名 参加者：33名（会場） ：17部門（Zoom）
【成果発表会】 2月 13時～15時	7. 研究進捗状況、結果、コースでの学び 司会進行・タイムキーパー（受講生）	教育研究推進WG	コース受講者：7名 参加者：31名（会場） ：25部門（Zoom）

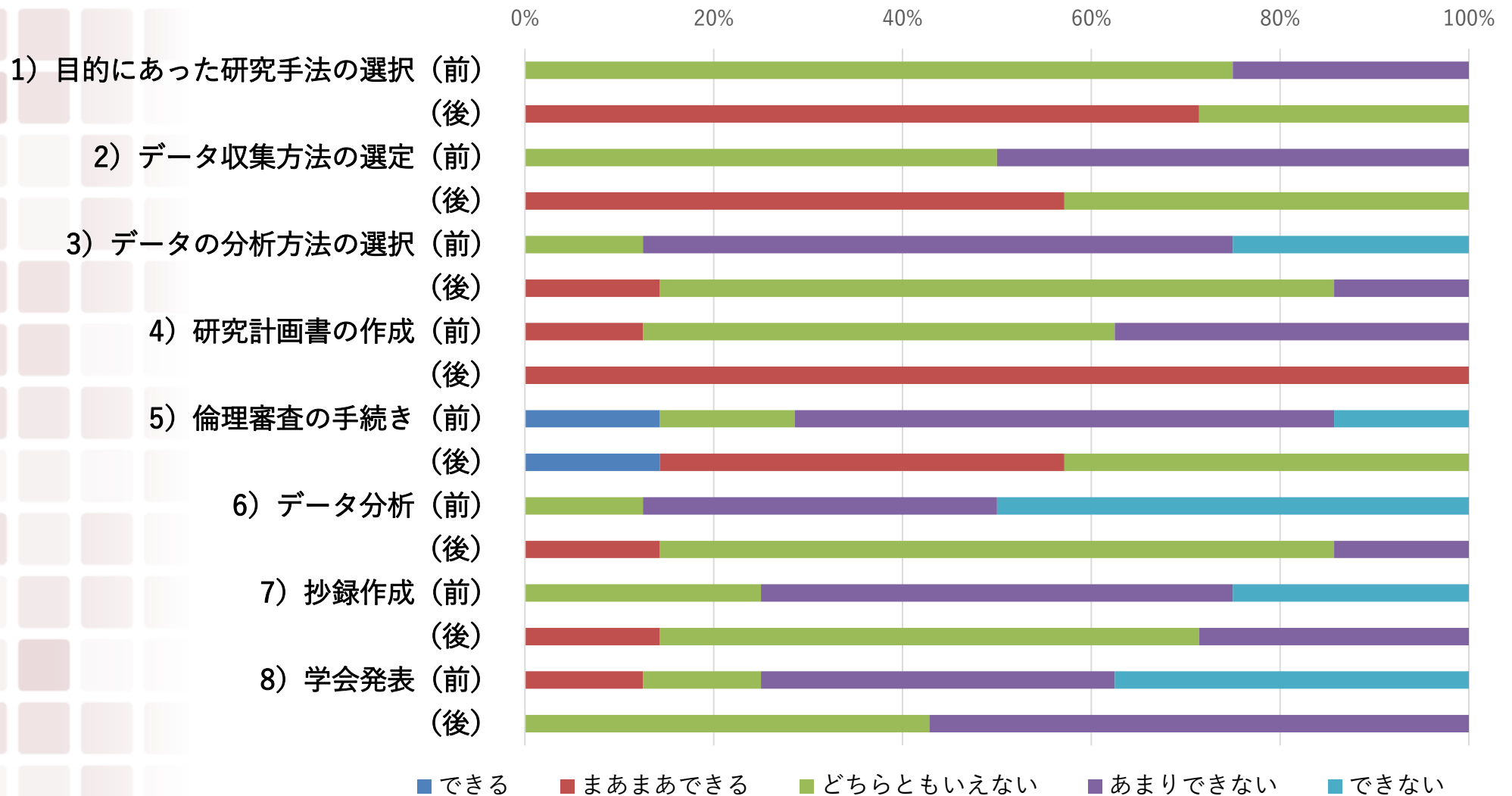
研究スキルの修得状況（実践編受講前後の比較）



R4年度看護研究コース実践編 研究スキル修得状況（受講前後比較）

研修前 n=8
研修後 n=7

研究スキルの修得状況（実践編受講前後の比較）



R4年度 看護研究コース実践編の目標に対する研究スキル修得状況（受講前後比較）

研修前 n=8
 研修後 n=7

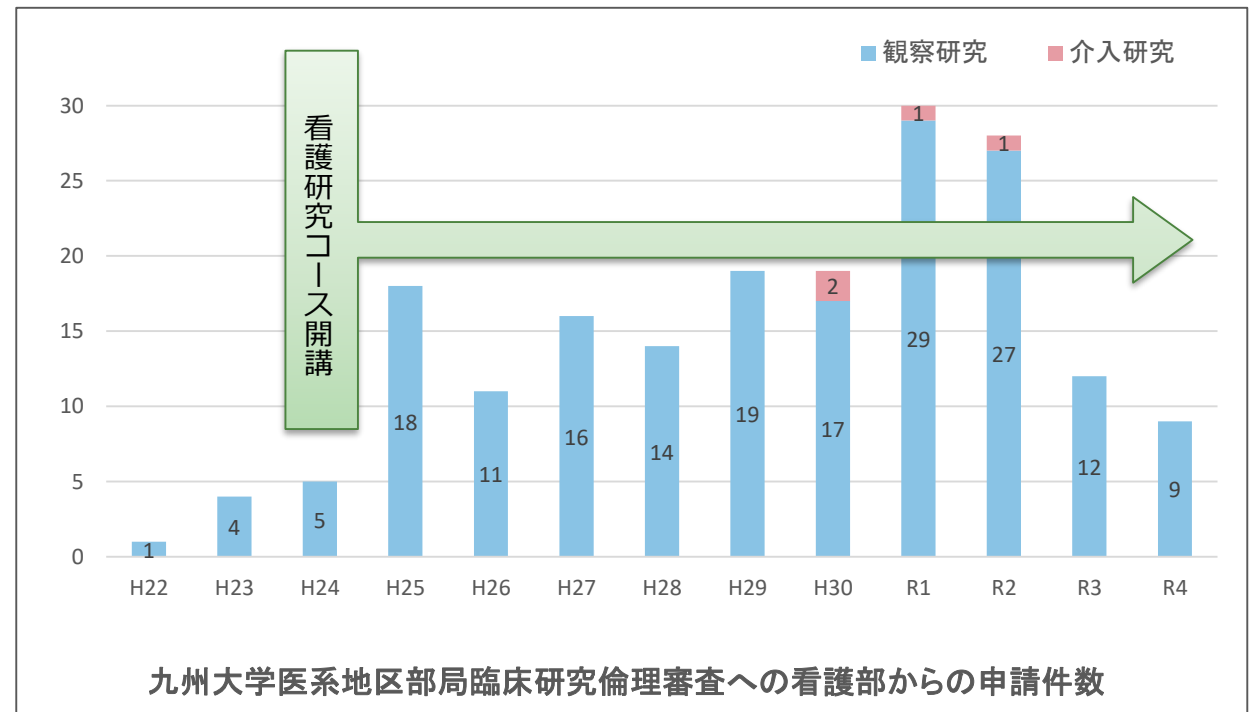
受講者アンケート結果

【アンケートの自由記載より（一部抜粋）】

- 統計に対して苦手意識があったが、実践編の講義を受けて苦手意識が改善した。研究計画書や倫理審査、Webアンケートなど悩んだり、困ったときに保健学科の先生や部署の指導者さん、WGの方々にアドバイスをもらえて研究を続けることができ良かったです。
- 自分が業務している中で疑問に思うものを研究的視点で考えてみるようになりました。後輩看護師へ研究を勧めています。
- 看護の中の疑問を研究できるのではないかと考えるようになりました。また日々のケアの結果が患者さんにどのように効果があるのか考えるようになりました。

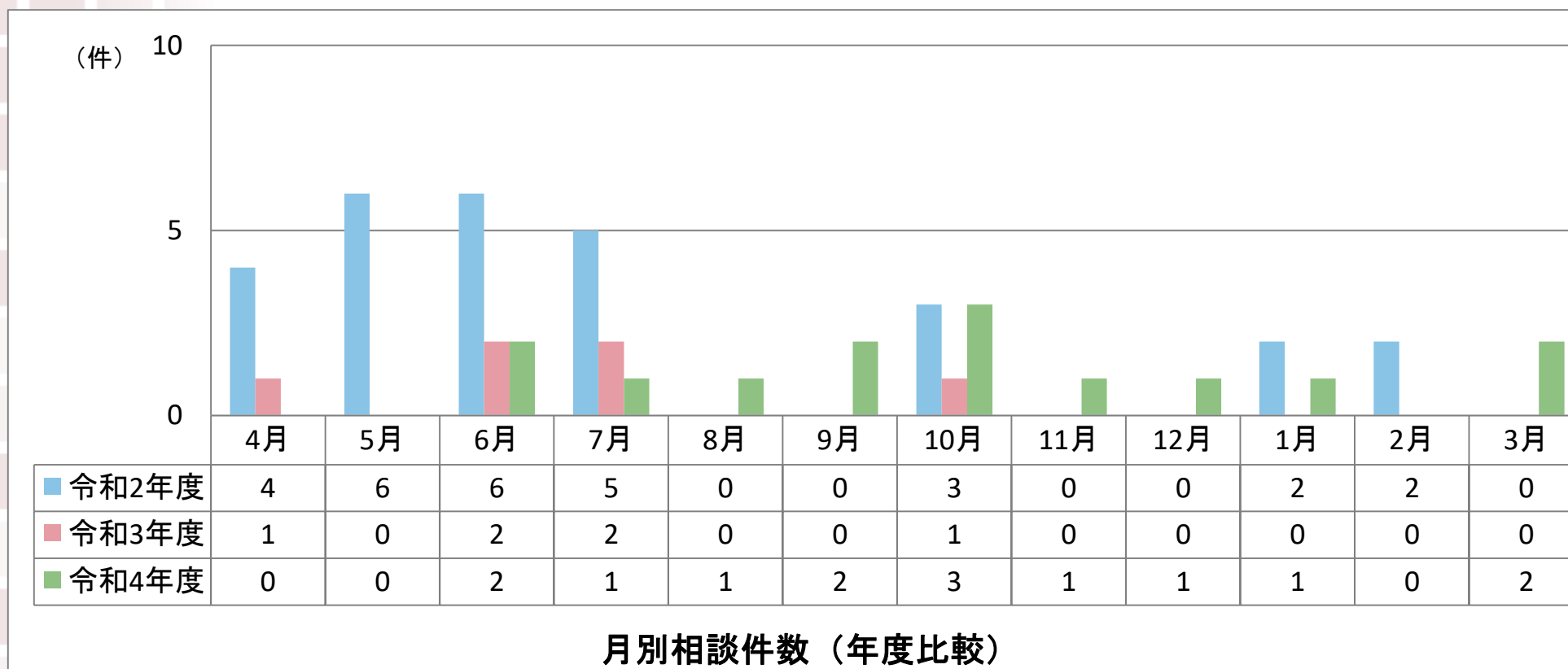
【看護研究への取り組み状況】

看護部からの研究倫理審査申請件数は、平成24年度より増加した。令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行のため休講し、令和3年度より、基礎編から再開した。令和4年度は新規申請は減少傾向にあるが、観察研究17件が継続して行われている。



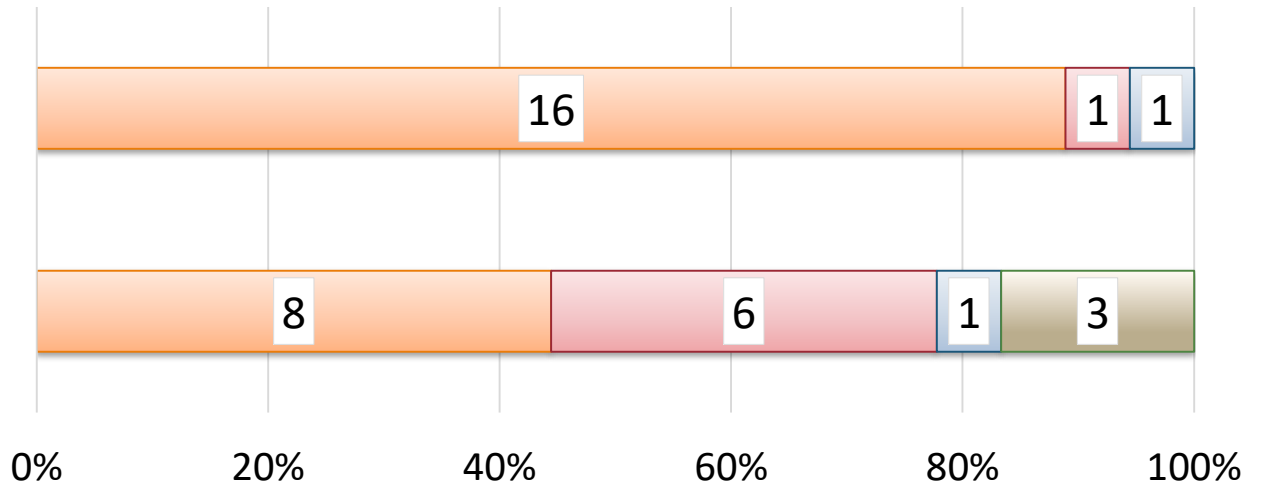
2. キャリアステーション

- 構 成 員 : 看護師長、専門看護師、大学院修了者
保健学科への人事交流経験者
令和4年度は教育研究推進WGメンバーのうち11名で相談に対応
- 相談内容 : 看護研究の相談 (研究テーマの絞込み、研究計画書の作成など)
進学相談 (大学院進学やスペシャリストを目指す際の情報提供)



キャリアステーション利用の感想 (n=18)

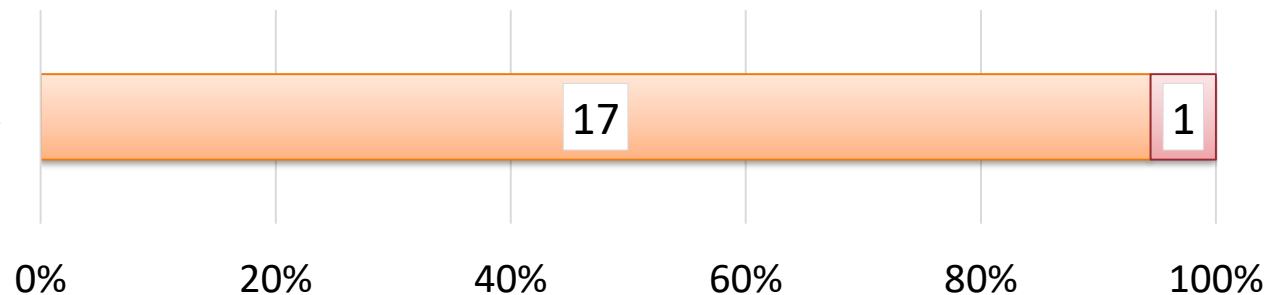
問題解決に役立ったか



看護研究Q&Aは役立ったか

- とても役立った
- 少し役立った
- どちらでもない
- あまり役立たなかった
- 全く役立たなかった
- 利用しなかった

必要があればまた利用したいか



- 非常にそう思う
- ややそう思う
- どちらでもない
- あまり思わない
- 全く思わない

キャリアステーション利用の感想 (n=18)

【利用者からのアンケート結果（一部抜粋）】

- 自分たちの思いを受け止めてもらったうえで、状況を整理してもらい前に進むことができた。
- テーマと内容のずれを修正でき、自分たちが何をしたかったのか再認識ができた。
- 目的、アンケート内容を指導してもらい、研究の全体像が見えた。
- 話しやすい環境や雰囲気づくりをしてもらい助かった。
- 相談日が限られており、日程調整が大変だった。

今後の展望

- ▶ 九州大学病院の看護師が九州大学保健学部門看護学分野の教員と協働して、令和3年度から始めたコースにおいて研究の成果を発表することができた。
- ▶ このコースでは研究者が所属する部署の看護師からも指導を受けられる体制を構築し、相談しやすい体制を整えた。
- ▶ 受講者の多くは、量的データの理解や研究計画書を作成し倫理審査申請ができるようになっており、満足度も高かった。
- ▶ 今後は定期的に保健学科教員と話し合いの時間をもち、双方がディスカッションしながら疾患を持つ患者のニーズに応えられる研究テーマに取り組み、九州大学から看護を創造し発信していけるようにしていきたい。